

令和元年度第5回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和2年2月17日（月）10：00～12：00
II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局
III. 出席者：角田担当理事兼総括委員長、大原主査、前田委員、佐渡友委員、酒井委員
事務局：井端事務局長、中村

IV. 検討事項

大原主査が議長となり、議事次第に沿って、主に対話集会での意見交流の結果と来年度の活動方針について以下の通り検討した。

1. 対話集会における報告・説明の要点と意見交流の内容・受け止め方

(1) 思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想の報告・説明の要点

3つのグループによる分野連携対話集会では、概ね次のような点を中心に報告・説明した。

- ① モデル構想は、成績評価モデルと誤解を招かないよう、学生が卒業までに考える力などを身につける訓練としてのモデルであることを強調した。
- ② 知識獲得型の点検・評価は必要であるが、反面、本質を捉える学修が後退してきていることから、思考力等の到達度を訓練する仕組みとして、クラウド上でビデオ試問を行う点検・助言の仕組みを考えた。なお、将来システムの継続性、有効性が見通せる段階になれば、卒業年時に思考力等の到達度を質保証するエビデンスとして活用することも可能になる。
- ③ ビデオ試問は、映像、写真、アニメーション、図・表などを用いたビデオコンテンツをクラウドから受けとり、クラウドに回答を記述で行う。評価は、ビデオコンテンツを作成した外部者を含む3人程度で第1段階の点検・評価を行い、その結果を踏まえて、大学担当教員が第2段階として総合的に点検・評価し、助言をフィードバックする。
- ④ ビデオ試問を受ける学生の対象は、PBL（プロブレム・ベースラーニング、プロジェクト・ベースラーニング）科目の受講者を前提にしている。
- ⑤ 点検・評価・助言の能力要素として、「標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック」の通り、思考力等を中心に、「論理的な思考力」、「批判的な思考力」、「科学的な考察力」、「問題発見・解決力」、「価値創造力」、「論旨明快に表現する力」を設定し、能力要素のレーダチャート化、助言のフィードバックを通じて、学びの好循環が身に付くようにする。なお、学修行動に求められる行動特性や知識の量や正確性を判断する能力要素は除外した。
- ⑦ 美術・デザイン系など作品自体の独創性・芸術性・製作技術を重視する分野、知識・技能の量及び正確性を中心とした実技・実演・実習の分野、資格取得の分野は、本モデルの適用対象外とした。
- ⑧ 思考力等が標準レベルに達しない学生の対応としては、学内でのeラーニングによる支援体制の仕組みが必要となる。
- ⑨ 学修成果の質保証システムとして有効性を検証するため、パイロット的な試行プログラムを策定し、本協会でも文系・理系分野の一部で試行・検証する必要がある。

(2) 意見交流の状況と参加者の受け止め方

- ① どの対話集会でも運営面の時間配分が十分でなく、説明時間の確保に追われて意見交流に時間がとれなかった中で、「思考力の外部点検・評価・助言モデル構想案」、「具体的な諮問イメージの映像」、検討中の「標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック」について紹介して賛同を確認したところ、新たな成績評価モデルの提案でなく、思考力等の到達度を点検する仕組みであることが理解され、昨年度と比べ否定的な意見はなく、認識の共有が促進された。
- ② 答えの定まらない課題解決が求められるこれからの社会では、多様な知識を関連付けて新たな知を創造する能力が求められてくることから、能力要素の「価値創造力」は重要である。
- ③ ビデオ諮問のイメージ映像について、質問の背景や質問事項を文字や音声で示すのではなく、ドラマのような映像を見せる中で、「問題の背景や課題を考えさせるコンテンツが望ましい」、「紙と映像による違いを明確にすることでビデオ諮問の必要性が理解できるようにする」、「専門が異なる教員

で作る必要がある」、「文系と理系用のビデオ諮問が複数必要となる」、「障害を持つ学生や留学生への対応を考慮したコンテンツ作り」などの必要性が認識された。

2. 来年度の活動方針について

活動内容を検討する過程で「能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリックの参照例」について一部見直しを行った。能力要素の「問題発見・解決力」の中で重要な点は課題設定であることから、課題設定の点検・評価・助言の視点を明確にした上で、「問題発見・課題設定力」と「課題解決力」に分けることとし、次年度に改めて検討することにした。

以上を踏まえ、2020年度(令和2年度)に研究すべき課題として、11月を目途に以下のように計画した。

- ① 思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想詳細設計の研究
 - * 外部点検・評価コンソーシアムの役割と運営の詳細
 - * 点検・評価者の公募基準、公募方法
 - * 点検・評価・助言クラウドの構築と運営
 - * 分野別到達度点検・評価基準の策定方法など
- ② ビデオ諮問コンテンツの試作
 - * ビデオ諮問コンテンツと紙試験との違いの明確化
 - * ビデオ諮問コンテンツの作成要領・ガイドの策定
 - * 試作コンテンツの分野拡大と試作の進め方
(法学、会計学、社会学、機械工学、化学、栄養学、歯学)、2分野委員(委員長)を追加
 - * 試作コンテンツと能力要素の到達度点検・評価との関係性について
点検・調整
- ③ 標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック参照例の点検
 - * 能力要素ごとに点検・評価の観点を再確認・調整
 - * 点検・評価の観点と点検・評価の基準との関係性の再確認・調整
 - * 学生が理解しやすいルーブリック表現の点検・調整
 - * 学生にフィードバックする助言テンプレートの作成